

園での遊び

— その教育的ねらい —

友松 あきみち



家庭での幼児の一日が遊びによって継続されているように、幼稚園や保育所の生活もまたつねに子どもらのでさまな遊びによって営まれている。遊びを中心としたこの幼ない子どもらの集団生活を、保育者はどのように受けとめ発展させていったらよいのだろうか、領域社会の場で考えてみたい。

今更言うまでもないことだが幼児の遊びと仕事は、目的のない興味本位の遊びから目的をもった実用的な作業へと移っていく、いわば関連した生活の発展である。特に幼少の子どもらの遊びは瞬間的な興味によって活動が起され、興味がみたされるか障害に当面して完了する。そのような遊びの繰り返し次第に何らかの見通しをもって行なう遊びとなり、その遊びを継続し発展していくために仕事としての作業も次第に多く含まれてくる。

それゆえ幼稚園や保育所における幼児の遊びは、そこに何らか

の目的をもった、例えば子どもの興味性を大切にあつかいながらもそれが次第に努力に変様していくような方向づけが必要とされてくるわけである。幼稚園教育要領をみても、教育内容には大別して遊びと生活指導の二面が用意されていると思う。幼児が望ましい成長をしていくためには、年令にふさわしい経験を重ねて自然に知識や生活技術を体得していくことが大切である。教育要領に示されている望ましい経験の項目はその意味で遊びを媒介とした教育要素を持っているわけで、同時にその経験には誘導されていく方向もまた含まれているはずである。いわゆる人間形成ということばで表現されているところの、保育者の教育的な見通しである。

幼児は幼稚園や保育所の集約された集団生活の中で、遊びを通じて自己の力を次第に測定していく。自分の可能性を知ると同時

に年令的な成長の限界、時には人間としての限界を知るであろう。遊びを通じて生活のわきまも生じてくるのである。だがあくまでも、日々に成長していくものの前途にはつねに豊かな可能性と創造性が脈うっていなければならぬ。時には遊びの中で自分の意志を通してみることも必要であろう。冒険もしなければいけない。賞賛され愛され、時には嫌われることもあってよいのであろう。大事なことは、子どもらの背後にあつてつねに子どもらを見守っている保育者が最後に彼らに何を与えるかである。

入園を希望する家庭調査の多くには幼稚園教育に「社会性をほすこと」を期待していることが高位にあげられているが、単に一時の流行語と見すごしてはいけまい。今日の不安定な社会が家庭の中にも教育上の困惑をもたらしているように、実際の現場においても確信をもって人間形成の教育にあたることは決して容易なことではない。社会性をのばすということは、はたして如何なる人間をつくることであるのか——、幼児期の遊びの指導ひとつを取りあげてみても、教育計画をつくることの容易でないことに気づかされるのである。

ソ連の就学前児童教育誌にメンジェリツカヤという人が幼児の遊びと指導について書いている。「幼児の個性は遊びによって発達する。知識も感情も道徳性も、すべてが遊びを通して相関連した一つの統一体として発達する——」保育の場での遊びのあつか

いの重要さと、それゆえの配慮について述べているのであるが参考になる面があると思うので次に文中の一、二を要約しておく。

「幼児の個性の発達ほまさに周囲のものとおとむこと、そのことが基礎になつてゐる。遊んでゐる子どもはおとなの真似をし、いろいろな役を演じ生活のさまざまな現象を描く。その場合幼児は何を描いたらよいか、遊びがその子に課している問題をどう解決したらよいか、実際に対象の特性をどう考えたらよいか、いろいろに思案するだらう。このように幼児の遊びの中では、周囲についての観念と理解が発達することが大切なのである。それは同時に、その問題を通じて道徳性も形成されていくのである。役割を演じながら、幼児はある人物の行為を真似するばかりでなく、感情とか印象、或いは人々や労働に対する彼自身の態度も伝えるであらう。このように遊びの内容や配役によって、幼児の感性、関心、人生への態度が形成されていく。また集団労働とか人々の友好関係が彼らの友情も養つていく。このように遊びの内容は、幼児の知能の発達や道徳性の育成にも大きな影響を与えている。遊びが子どもの知能と道徳性の発達にとつて有効であるためには、教師はまず遊びのテーマの選択と筋の運びに心を配り、子どもの行為や彼ら同志の関係、配役などを見守らねばならない。もとより遊びの自然さと喜びを保つために、その遊びの指導に強制があつてはならぬけれども……」

「年長児の遊びの選択は、集団とか友情を育てる上で重要である。多くの場合一人の子どもが遊びを思いつき、残りの子どもたちが彼に従う。しかし、一人の子どもが他の子どもを抑圧するようなことを許してはならない。教師は子どもらに注意深く見守り、おとなしい子どもも提案も取り上げるようにしなければならぬ。誰でもが遊びを思いつく権利があり、誰のものがよいかは集団が決めるという精神を少しずつ養っていかねばならない」

メンジェリツカヤは幼児を社会生活に親しませるためにどのような創造的遊びをさせたらよいか、遊びの役割についての共同研

問題児の側から

幼稚園や保育所が、子どもの社会性を伸ばした役割は、非常に大きいものがあった——この十数年を振り返ってしみじみ思われることです。この二つの施設における教育が、子どもの社会性を伸ばす推進力になったのか、親たちのニーズが高まったことに

究を続けている。上掲の個所ではとくに遊びの指導面について触れていることが多いが、労働に対する理解とか友情の発展についてかなり特色をもった道徳性の育成が教育の根幹に流れていることを感じさせる。困情の違いによって教育の方法に多少の差異はあるけれども、教育観とか人間観の確立が保育者の意識の上に必要なことを考えたい。近く幼稚園教育要領も改訂されるというが、その意味でも思慮ふかい配慮のもとにつくられることを期待したいものである。

(神田寺幼稚園長)



平井信義

応ずることになったのか、おそらく両者が相俟って、よい結果を生んだと言えましょう。小学校入学式の折に、泣くような子どもは殆どなくなつた——というのが、長年小学校教育にたずさわつてこられた先生方のご感想であります。